

大森遺跡発掘調査概要Ⅰ

2007. 3

千早赤阪村教育委員会

大森遺跡発掘調査概要 I

2 0 0 7 . 3

千早赤阪村教育委員会

は し が き

大阪府下で唯一の村である千早赤阪村は、楠木正成が山城を築き幕府軍に応戦した地、南北朝動乱の舞台のひとつとなった地として『太平記』などの書物によって広く知られています。

しかし、本村にもそれ以前の歴史はあります。今回報告を行う大森遺跡からは、古墳時代の壺などが出土し、本村の歴史解明を助ける貴重な資料の1つとなることでしょう。

調査の実施及び遺物整理にあたっては、多くの方々のご理解・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも本村の文化財行政にご理解・ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成19年 3 月

千早赤阪村教育委員会

教育長 山 本 澄 雄

例 言

1. 本書は、平成18年度に行った（仮称）村道大森線に伴う大森遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、千早赤阪村教育委員会 社会教育課 主事 西山昌孝・和泉大樹 を担当者として実施し、平成18年11月20日に着手し、平成19年1月31日に終了した。引き続き遺物整理を行い、平成19年3月31日に完了した。
また、同遺跡の範囲確認のため試掘調査を平成19年1月31日にあわせて行った。
3. 本書の執筆は西山・和泉、編集は西山が行った。文責は文末に記する。
4. 挿図の方向は国土座標に基づく座標北を示し、標高はT.Pで表示した。
5. 調査に参加した者は、下記のとおりである。（順不同・敬称略）
岩子苑子・福田夏子・周藤光代

目 次

はしがき 千早赤阪村教育委員会 教育長 山本澄雄

例言

目次

1. 地理的環境・歴史的環境	
(1) 地理的環境	1
(2) 歴史的環境	2
2. 調査に至る経緯	2
3. 調査の成果	
(1) 層序	3
(2) 検出遺構	3
(3) 出土遺物	7
4. まとめ	7
5. 大森遺跡の縄文土器	8

挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡分布図 (1/20,000)	1
第2図 調査区位置図 (1/1,000)	2
第3図 土層断面図	4
第4図 遺構配置図 (1/500)	5
第5図 出土遺物 (1/4)	7
第6図 大森遺跡出土の縄文土器 (1/4)	8

図 版 目 次

図版1 調査区全景
図版2 遺構
図版3 流路

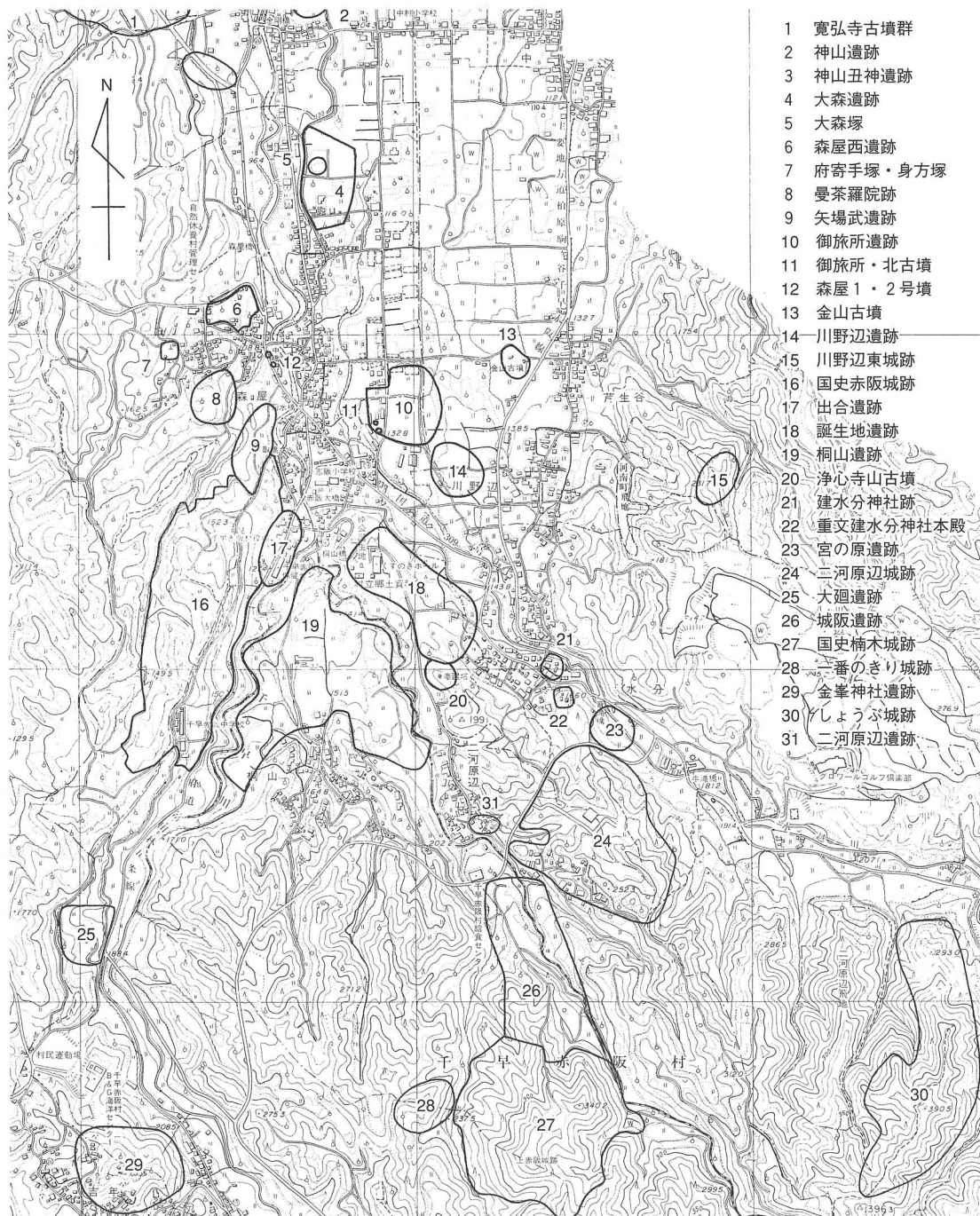
図版 4 大森塚・出土遺物

1. 地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

千早赤阪村は大阪府の南東部に位置する。北側に河南町、西側に富田林市、南側に内長野市、東側を南北に連なる金剛山を境に奈良県御所市・五條市と接する。この金剛山の麓から北へと延びる丘陵状山地上、千早赤阪村大字森屋に調査地は位置する。

調査地の西側には千早川が流れる。この付近は千早川の河川浸食により階段状の地形、いわゆる河岸段丘が形成されている。



第1図 周辺遺跡分布図 (1/20,000)

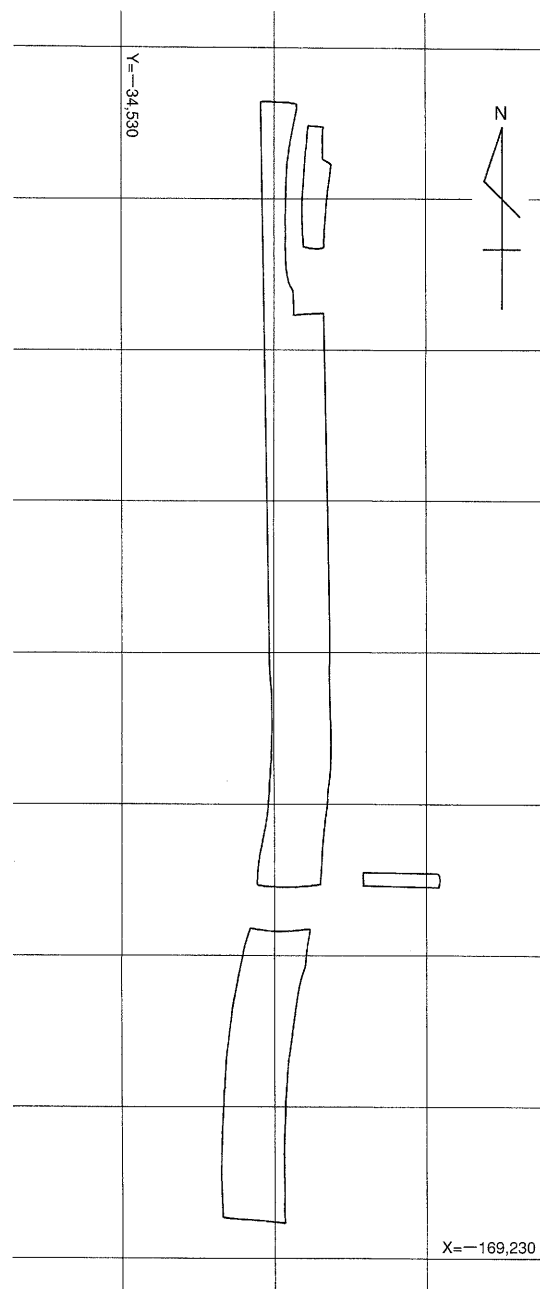
(2) 歴史的環境

本遺跡は千早赤阪村の北端部にあり、河南町に近接する。本遺跡の中央西側には鎌倉時代の武将大森彦七の塚という伝承のある大森塚がある。大森彦七は鎌倉方の武士で、楠木正成が霊となって現れる様は江戸時代の歌舞伎の演目にも使用された。

東南側の河南台地上には御旅所遺跡や御旅所北古墳・御旅所古墳が位置する。御旅所遺跡からは竪穴住居から5世紀末の韓式土器が出土、7世紀の建物が検出されている。さらに、その南東側には川野辺遺跡があり墨書土器が出土している。千早川を挟んだ対岸には小さい谷に集中して小型古墳が営まれた神山丑神遺跡が位置し、その南側には森屋古墳群、北側には寛弘寺古墳群が広がる。

2. 調査に至る経緯

千早赤阪村大字森屋地内において、村道が新設されることになった。当該地は埋蔵文化財包蔵地の範囲外であったが、既存の周知の埋蔵文化財包蔵地である大森塚に隣接することから、千早赤阪村教育委員会は平成18年3月に試掘調査を行った。調査の結果、遺構・遺物包含層の存在が認められたため、事業主体である千早赤阪村建設課と村教育委員会の二者は協発掘調査に関する協議を重ねた。そして、千早赤阪村と村教育委員会の間で、同年10月に「発掘調査に関する協定書」を締結し作業を進めた。本調査は平成18年11月から平成19年1月の期間で行った。調査面積は1,220㎡である。



第2図 調査区位置図 (1/1,000)

3. 調査の成果

(1) 層序

調査区は千早川が形成した河岸段丘である河南台地の中位面に位置する。調査前は水田であったが、中世の間に多くの部分が造成されており、良好な包含層が遺残していた部分は少ない。しかし、調査区南側は比較的遺物が多く、中世前半の遺構と思われる柱穴を確認した。

以下、特徴をよく残していた南側を基本に土層の特徴を記する。

第Ⅰ層 暗青灰色土 耕土である。層厚約10～25cm。

第Ⅱ層 黄灰色粘質土 床土である。層厚約5cm。

第Ⅲ層 青灰色砂質土 層厚約10cm。

第Ⅳ層 礫混じり灰色土 層厚約10～35cm。遺構面を覆う土層である。瓦器・須恵器・土師器・白磁などが出土する中世の包含層である。

第Ⅴ層 褐色混じり灰黄色土 下層面には部分的に土壌状の窪みや畦畔状の高まりがあるが、遺物がないので人為的なものか自然によるものかは判別できない。

第Ⅵ層 黄灰色粘土 地山である。部分的に地山の状態が黄灰色シルトと暗灰色シルトの互層になったところがある。

土層の堆積は、南から北に向けて緩やかに下っていく。本来の地形は、河南台地の上面のように起伏があったようで、古くから造成が行われており土層が分断されて地山が判断できないので、中央部と南部にトレンチを設け、断ち割りにより地山の確認を行った。中央部はそのまま変化はなく、地山であることが確認された。しかし、南側端は礫混じりの暗茶褐色粘土になり、中央部との変化は激しい。

(2) 検出遺構

NR1 (第4図、図版3)

調査区の北端に位置する自然流路である。深さ1.1mを測る。両岸が確認できていないため、幅は不明である。岸が確認できた南側より遺物が出土している。

南側の深さ約0.5mの浅い岸の部分に土師器小型丸底壺と高杯が出土している。丸底壺の内部には炭化物があり、内容物が入れた状態で流路へ投棄されたものと考えられる。出土状況からみて、なんらかの祭祀が行われたものと思われる。この出土に近接して高杯の杯部が出土している。

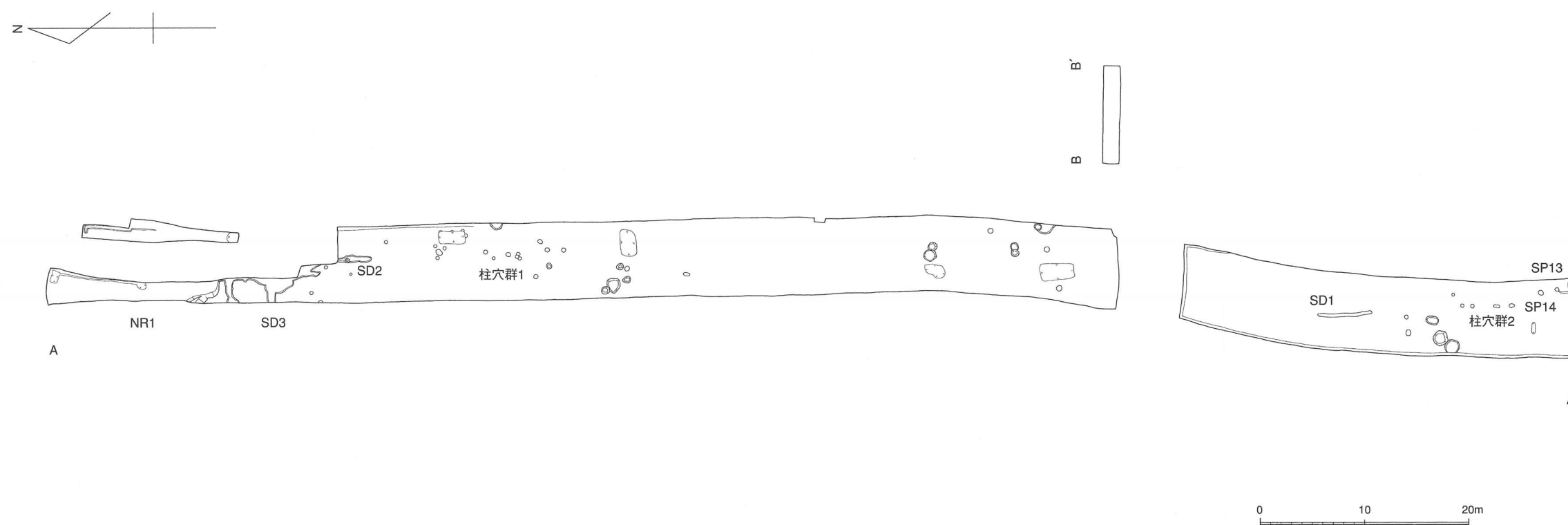
流路内の遺物は、弥生時代から中世にわたる遺物が出土している。下層の灰色粗砂からは弥生底部、高杯の杯部、須恵器片など、中層にあたる明灰色砂質土からは瓦器、土師器、黒色土器A類・B類、須恵器、製塩土器、サヌカイトなどが出土している。流路内から14世紀と考えられる遺物は出土していない。13世紀代には埋まりはじめ、14世紀には現況に近い状態まで埋まり、水田化したと思われる。

A

A'



第3図 土層断面図



第4図 遺構配置図 (1/500)

(3) 出土遺物

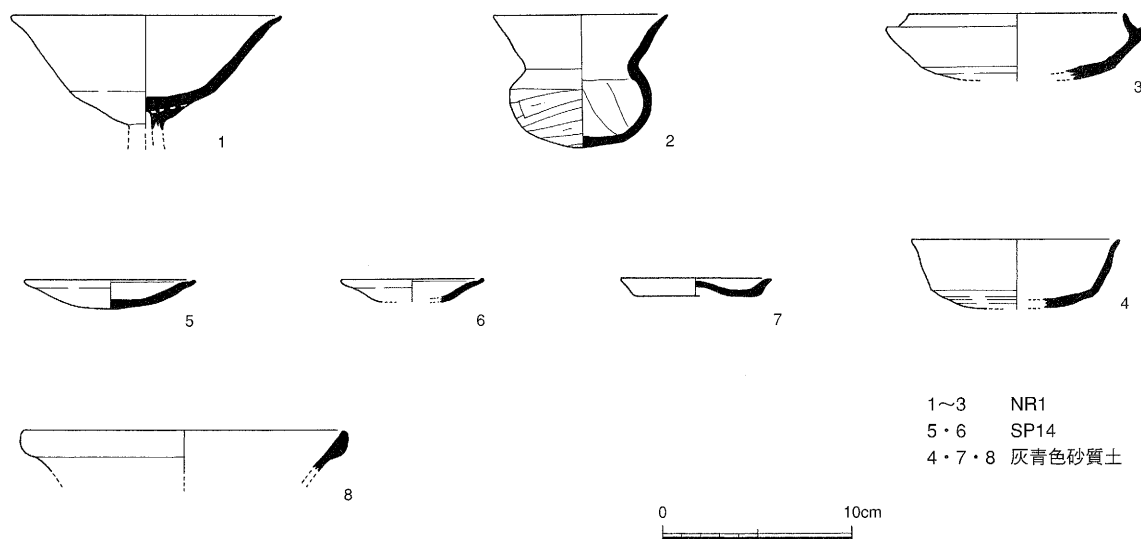
1は、土師器の高杯の杯部である。口径14.2cmを測る。2は、土師器の小型丸底壺である。口径9.7cm、器高7.1cmを測る。体部下半にはヘラ削りを施す。部分的に二次焼成の痕を残すが、丁寧な作りである。3は、須恵器の杯身である。口径11.4cmを測る。4は、須恵器の杯である。口径11.0cm、器高3.6cmを測る。5～7は、土師器の小皿である。5は、口径9.0cm、器高1.5cmを測る。7は土師器の小皿である。口径7.8cm、器高1.0cmを測る。平底で、中央部がヘソ皿のように突出する。8は、輸入陶磁器の白磁である。口縁のみではあるが、Ⅳ類の椀である。ほかにも白磁が1点出土している。

4. まとめ

本遺跡は今回がはじめての発掘調査であったが、多くの成果をあげることができた。今回の調査では大森塚に関する成果はあげることができなかったが自然流路や出土遺物から多くの成果をあげることができる。発掘調査は少ないが、自然流路から河南台地がどのように開発されていったかの一端を知ることができた。

さらに、試掘調査から縄文土器が出土し、縄文時代の遺跡が周辺に存在することが判った。河南町域でも縄文土器が出土しており、今回の調査で縄文時代の千早谷の様相について関心が深まるであろう。

(西山昌孝)



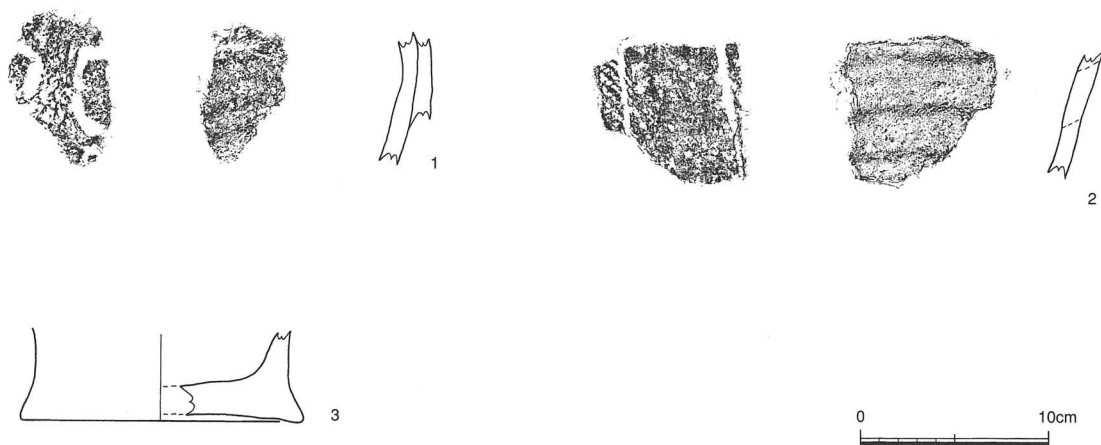
第5図 出土遺物 (1/4)

5. 大森遺跡出土の縄文土器

本村の過去の調査においては、縄文土器出土例に乏しく、今回の出土地から約1.0km南に位置する楠公誕生地遺跡と約2.5km南南西に位置する大廻遺跡から縄文土器片が数点出土しているのみである。今回の試掘調査においても、出土点数は口縁部・底部片が各1点、胴部片が2点と極めて少ないが、出土事例に乏しい状況下では軽視できるものではない。

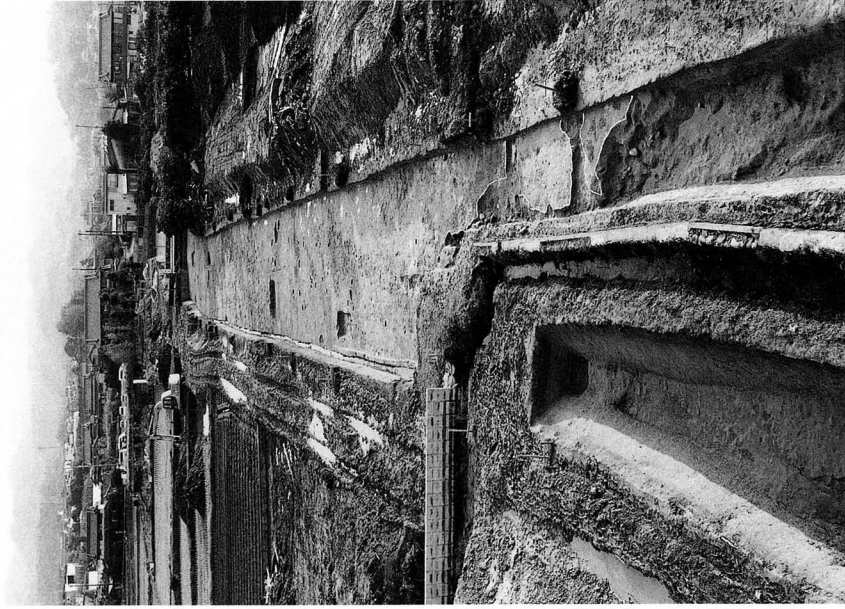
1は口縁部片であるが、先端部までは残存していない。破片は隆帯をもつ波頂部であり、隆帯上に刻み等は確認できない。外面には楕円形の区画文が施されると考えられ、それらは隆帯で区画される。2は胴部片である。垂下沈線が認められ、沈線東間には縄文が施される。3は平底底部片である。なお、これらは同一個体と考えられ、胎土は粗く2～3mm程度の小石が多く混じる。縄文中期末の土器であると考えられる。

(和泉大樹)

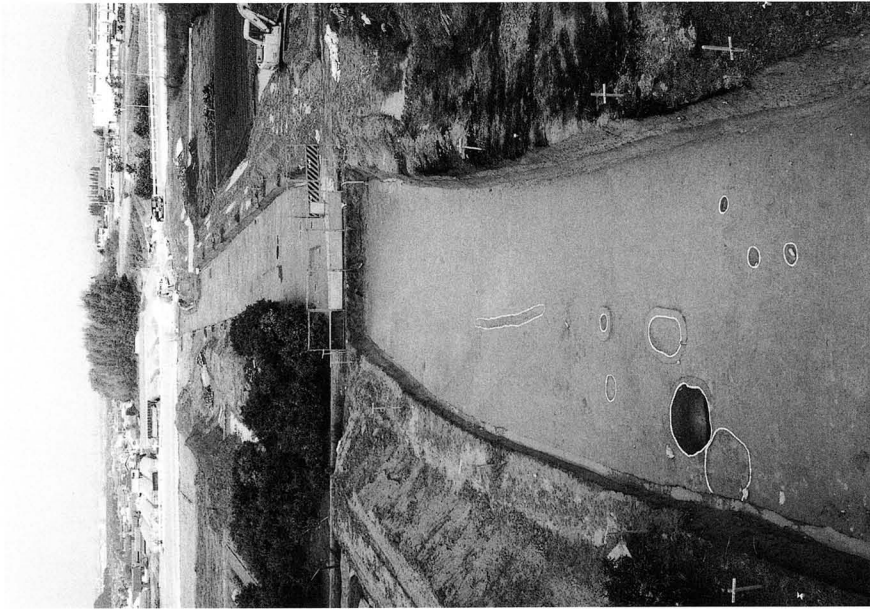


第6図 大森遺跡出土の縄文土器 (1/4)

版 圖



調査区全景
北より望む

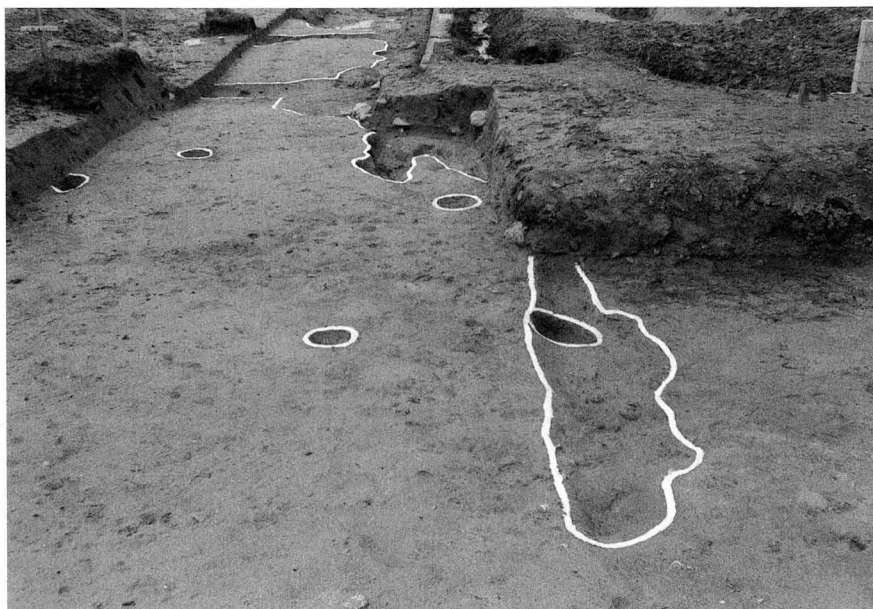


南より望む



東西トレンチ

SD 3



柱穴群 1



柱穴群 2





NR 1
北から望む



南から望む

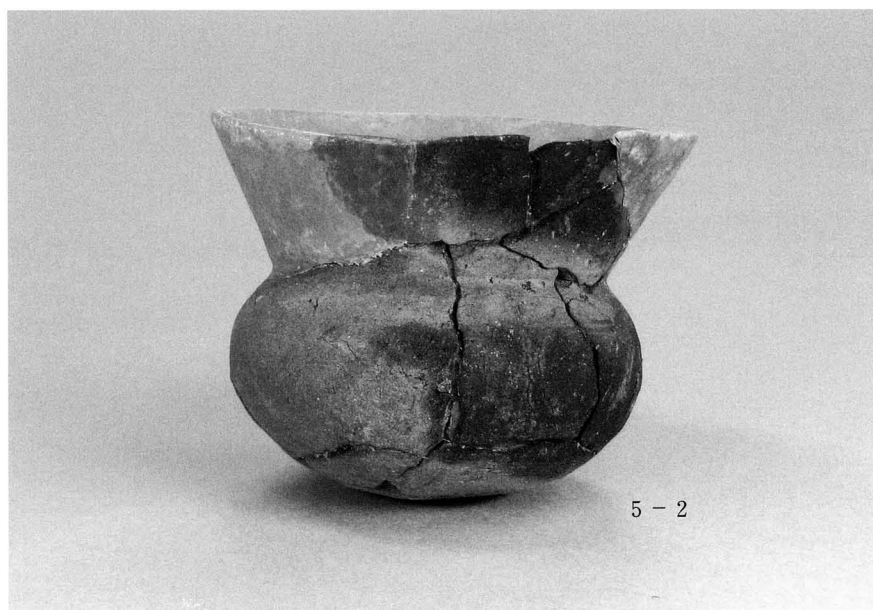


遺物出土状況

大森塚



出土遺物



報 告 書 抄 録

ふりがな	おおもりいせきはつつつちょうさがいよう							
書名	大森遺跡発掘調査概要							
副書名								
巻次数	I							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集著者名	西山昌孝・和泉大樹							
編集機関	千早赤阪村教育委員会							
所在地	〒585-0041 大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分263番地							
発行年月日	西暦2007年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおもりいせき 大森遺跡 OM-06	おおさかふ 大阪府 みなみかわちぐん 南河内郡 ちはやあかさかむら 千早赤阪村 おおあざもりや 大字森屋	27383		34° 28' 31"	135° 37' 27"	2006.11.20. ～ 2007.1.31.	1,220㎡	村道新設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
川野辺 OM-06	散布地	古墳・平安～ 鎌倉	溝 柱穴 流路		土師器 須恵器 黒色土器 瓦器 他			

大森遺跡発掘調査概要 I

2007年3月31日

発 行 千早赤阪村教育委員会
千早赤阪村大字水分263番地
0721-72-1300
印 刷 (株)中島弘文堂印刷所

